



Creating Sustainable Value

NTTファシリティーズグループ

CSR 報告書 2019

価値創造ハイライト版



私たちは、Smart & Safetyで 持続可能な社会の実現に貢献し続けます。

私たちNTTファシリティーズグループは、人権の尊重、雇用と職場における差別の撤廃、そして腐敗防止への取り組みを経営の基盤とし、ICT・エネルギー・建築の技術を融合した環境ソリューションで、「Smart & Safety」な街づくりに貢献し続けます。

会社概要

■ 商号 株式会社NTTファシリティーズ
(NTT FACILITIES, INC.)

■ 本社所在地 東京都港区芝浦3-4-1グランパークタワー

■ 営業開始日 1992年(平成4年)12月1日

■ 資本金 124億円

■ 出資者 NTTアーバンソリューションズ株式会社(100%)

■ 従業員数 5,400名
(2019年3月31日現在・NTTファシリティーズグループ)

■ 業務内容

建築物・電力設備のコンサルティング、
企画、設計、保守、維持管理など

■ 地域会社(2019年4月1日現在)

株式会社NTTファシリティーズ中央・北海道・東北・
東海・関西・中国・九州

■ グループ会社(2019年10月1日現在)

株式会社NTTファシリティーズFMアシスト
株式会社NTTファシリティーズ総合研究所
株式会社NTTファシリティーズ エンジニアリング
NTT FACILITIES USA, INC.
Unitrio Technology Limited
Pro-Matrix
Electronic Environments Corporation
株式会社NSFエンゲージメント

INDEX

社会とファシリティ	会社概要	1	安心・安全な コミュニケーション	Our Action — 安心・安全なコミュニケーション	12	
	財務・非財務パフォーマンス	2		Case 04: ビルシステム向け サイバーセキュリティソリューション	13	
	トップメッセージ	3		チームNTTの コミュニケーション	Our Action — チームNTTのコミュニケーション ...	14
	私たちの事業と社会	5			Case 05: 多面的に展開した 2018年度のダイバーシティ活動	15
	私たちのサステナビリティ戦略	6		Case 06: 健康経営の推進と外部表彰	16	
人と社会の コミュニケーション	Our Action — 人と社会のコミュニケーション	7	研究開発の 成果ハイライト	ファシリティのさらなる進化に向けて	17	
	Case 01: 帝京大学 八王子キャンパス SORATIO SQUARE	8				
人と地球の コミュニケーション	Our Action — 人と地球のコミュニケーション	9	第三者意見	18	
	Case 02: 大規模データセンターの低炭素化	10				
	Case 03: バーチャルパワープラント(VPP) 実証実験への参画	11				

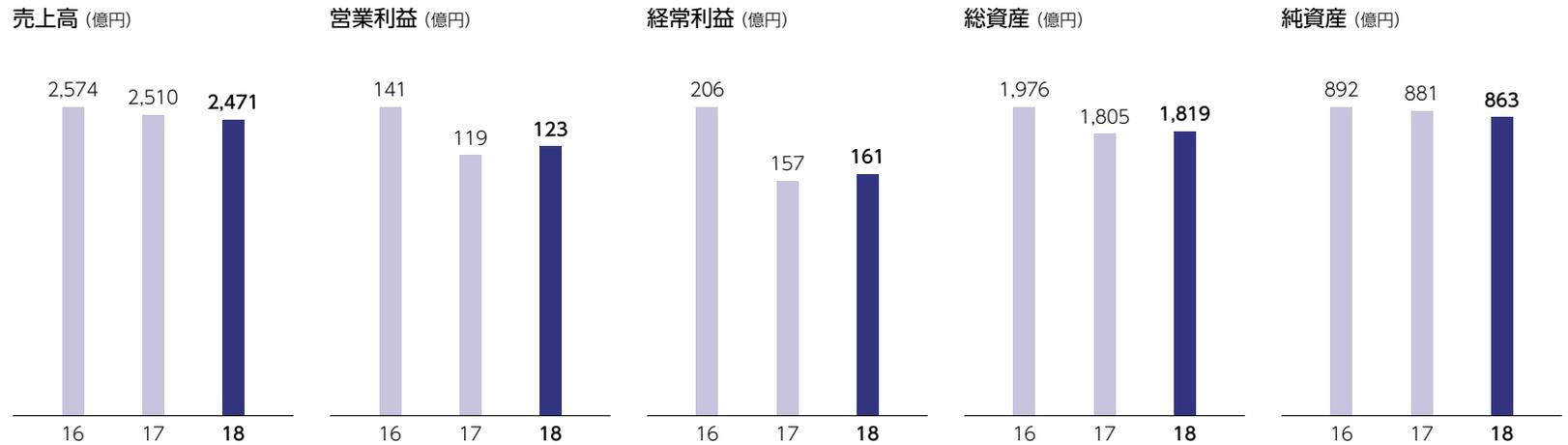


FINANCIAL/

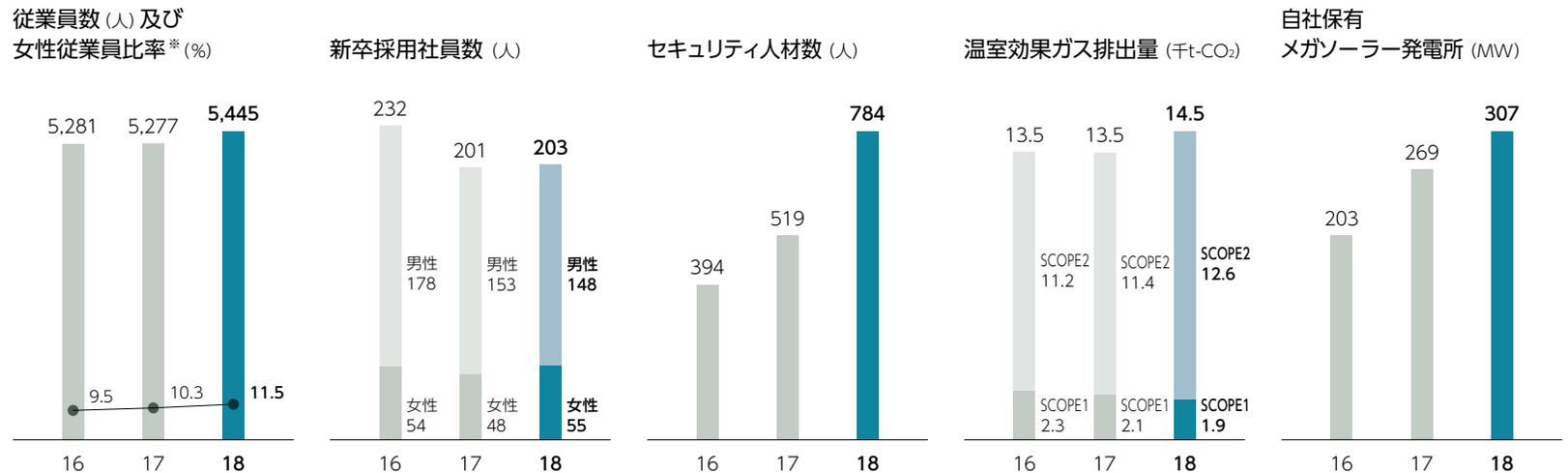
NON-FINANCIAL
HIGHLIGHTS



財務パフォーマンス



非財務パフォーマンス



■ 財務パフォーマンスはNTTファシリティーズ
 ■ 非財務パフォーマンスはNTTファシリティーズグループの合計
 ※女性従業員比率は国内のみ

トップメッセージ

持続可能な未来を見据え、
次のステージへ。
ファシリティーズの力で
さらなる価値創造に挑みます。



株式会社NTTファシリティーズ
代表取締役社長

一法師 淳

重みを増し続ける、 ファシリティーズの担う社会的意義

持続可能な社会の実現へ、お客様をはじめステークホルダーの皆様と協働し、価値を提供し続ける。2018年度は、私たちグループ社員の多くが、改めてファシリティーズの持つ可能性と責務を実感する一年でした。国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」は今や社会の幅広い方々の耳目を集め、誰もが生き活きと安心して暮らせる社会、豊かな地球を次世代に託せる社会の実現へと、グローバルに取り組みが進んでいます。また、日本政府が推進する「Society 5.0」では、IoTで全ての人とモノがつながった革新的な社会基盤の整備がめざされ、産官学連携での取り組みが続いています。このような中、社会インフラを支える私たちに對する期待も、日々高まっています。先進的な技術を取り入れさらなる安心や便利を実現するソリューションの開発・提供は勿論、サイバーセキュリティや自然災害などによるインフラを守り続ける仕組みの強化など、ファシリティーズの担う社会的意義を胸に取り組み私たちの価値創造の成果を、当報告書から実感いただければ嬉しく思います。

新たな事業構想のもと、 私たちならではの街づくりをめざす

2019年7月、私たちの挑戦は新たなステージに入りました。現在、NTTグループは中期経営戦略の一環として、「街づくり」を推進しています。地域社会の経済発展と社会的課題の解決をめざす、個性豊かで活力ある街づくりを、「コミュニティ」「イノベーション」「ダイバーシティ」「レジリエンス」という4つのバリューをもとに実現していきます。その中核会社としてNTTアーバンソリューションズが設立され、NTTファシリティーズはNTT都市開発とならぶ主要子会社として一翼を担うとともに、NTTグループ各社と連携します。

これら「街づくり推進事業」は、私たちの長年の経営資源を活かしつつ新たな可能性へと導くものです。私たちは、企業ビジョンに掲げる「Smart & Safetyで持続可能な社会の実現に貢献し続ける」のもと、社員と共に社会に貢献し「選ばれ続ける会社」、そして、エネルギー・建築・ICTの先進企業ならではのイノベーションで「輝き続ける会社」としてさらなる成長をするために、日々挑戦していきます。皆様からは変わらぬご支援・ご協力を頂戴できれば幸いです。

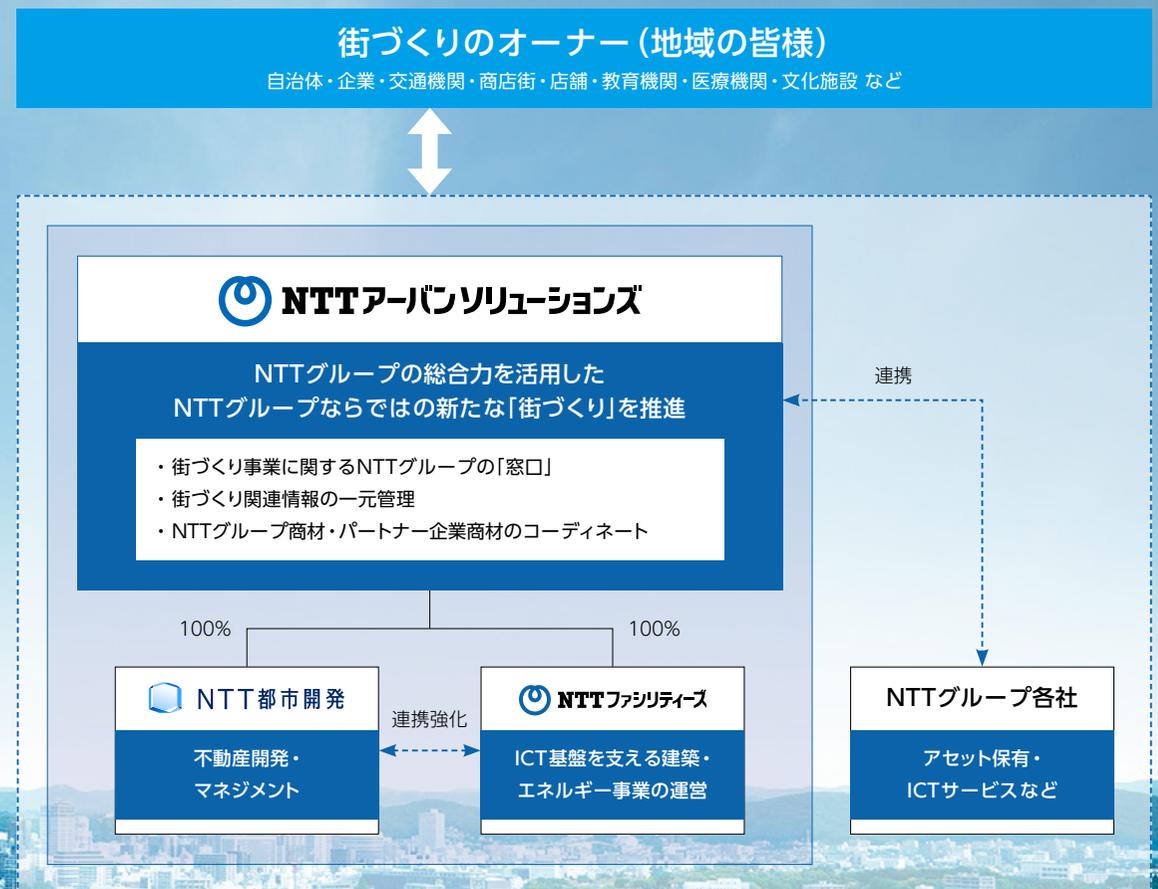
NTTアーバンソリューションズの事業開始について

2019年7月1日、NTTグループは、街づくり関連事業の事業基盤を集約・強化するため、関連事業を一括管理する新会社として「NTTアーバンソリューションズ」グループを発足しました。

NTTアーバンソリューションズは街づくり事業に関するグループの窓口となり、情報や資源を一元管理しながら各種事業を推進します。またNTTファシリティーズはNTT都市開発とともに主要子会社としてNTTグループ各社と連携し、各都市さらには各地域がめざす個性豊かで活力ある街づくりを実現していきます。

NTTアーバンソリューションズ概要

会社名	NTTアーバンソリューションズ株式会社(英文名: NTT Urban Solutions, Inc.)
所在地	東京都千代田区外神田4丁目14番1号 秋葉原UDX
代表者	代表取締役社長 中川 裕
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 街づくり事業に関する窓口 街づくり関連情報の一元管理 NTTグループ・パートナー企業商材のコーディネート
資本金	1,083億円
株主構成	日本電信電話株式会社 100%
主要子会社	NTT都市開発株式会社 株式会社NTTファシリティーズ
社員数	[単独] 約 300名 [連結] 約 6,700名



私たちの事業と社会

私たちNTTファシリティーズグループは、「地球環境を考えた統合ファシリティサービスでお客様から最も信頼されるパートナーとなる」という理念のもと、様々な場所で社会を支えています。「Smart & Safety」を合言葉に、グローバルなインフラ企業として進み続ける私たちは、日々、サステナブルな社会に貢献する多彩な価値を生み出しています。

事業領域 01 脱炭素	事業領域 02 スマートビルディング	事業領域 03 ファシリティマネジメント	事業領域 04 データセンター
<p>『脱炭素』は、今や世界的な潮流であり、各企業にとって取り組むべき課題です。私たちは省エネは勿論のこと、創エネから再エネまで、エネルギーのあり方を追求し、『脱炭素』社会の実現に向けて貢献します。</p> <div data-bbox="136 1037 566 1133"> <p>グリーン電力販売事業</p> <p>再エネ Fグリーン電力</p> </div> <div data-bbox="136 1145 566 1241"> <p>地域新電力事業</p> <p>省エネ 創エネ</p> </div> <div data-bbox="136 1254 566 1350"> <p>太陽光発電構築・保守</p> <p>創エネ MEGA SOLAR</p> </div>	<p>現在の省エネルギー対策は、『地球環境』や『働く人への配慮』も求められています。</p> <p>私たちはIoTを活用した省エネと、太陽光発電などによる創エネを組み合わせ、先進のスマートビルディングを実現するとともに、働く人にも快適な環境を構築します。</p> <div data-bbox="647 1037 1077 1133"> <p>ZEB ネット・ゼロ・エネルギー・ビル</p> <p>省エネ 創エネ NTTファシリティーズのZEB</p> </div> <div data-bbox="647 1145 1077 1241"> <p>ウェルネスオフィス</p> <p>生産性向上</p> </div>	<p>企業経営の第4の基盤とも言われ、経営資源である土地や建物。</p> <p>私たちは経営的な視点から、運用に関わるコストを抑えながら資産価値を向上し、総合的に『ファシリティのパフォーマンス』を最大化します。</p> <div data-bbox="1158 1037 1588 1133"> <p>ファシリティマネジメント</p> <p>コスト削減 資産価値向上 ファシリティマネジメント(FM)</p> </div> <div data-bbox="1158 1145 1588 1241"> <p>FM-BPO®サービス</p> <p>戦略的な施設管理 BPO サービス</p> </div>	<p>ビッグデータ、AI、IoTを支えるデータセンターでは、情報通信量が飛躍的に増大し、エネルギーコストの増加、設備容量の肥大、運用の複雑化などの経営課題が顕在化。</p> <p>私たちはデータセンター構築から保守まで『包括的サポート』で課題解決に貢献します。</p> <div data-bbox="1668 1037 2098 1133"> <p>高効率空調ソリューション</p> <p>省エネ 高発熱対応 高信頼性 CyberAir[®] 下吹型</p> </div> <div data-bbox="1668 1145 2098 1241"> <p>高信頼電源ソリューション</p> <p>省エネ 省スペース 高信頼性 FR シリーズ</p> </div> <div data-bbox="1668 1254 2098 1350"> <p>高機能運用・保守ソリューション</p> <p>安心安全 効率化 監視・保守サービス</p> </div>



私たちのサステナビリティ戦略 ~4つのマテリアリティに即した、長期的視点でのCSR

私たちは、企業ビジョンに持続可能な社会づくりに貢献し続けることを使命と掲げています。

これを実現していくために、「NTTグループCSR憲章」に掲げる4つの「マテリアルなCSRテーマ」を設定し、事業の特性を活かした継続的なCSR活動を推進しています。

その活動は社会の期待とともに進化を続けており、特に2017年度は国連SDGsに対する貢献への在り方の検討が一層進み、事業の様々な局面で新たなアクションが開始しました。

Theme 01
**人と社会の
コミュニケーション**

Theme 02
**人と地球の
コミュニケーション**

Theme 03
**安心・安全な
コミュニケーション**

Theme 04
**チームNTTの
コミュニケーション**

私たちのめざすもの

私たちは、社会の持続的発展のため、革新的ICTを開発・提供することで、より豊かで便利なコミュニケーション環境を実現し、国内外の様々な社会的課題の解決に貢献します。

重視している社会の変化

IoT (社会の様々な機器のネット連携)の進化と、社会のスマート化

私たちのめざすもの

私たちは、グループ事業全体にわたって環境負荷を低減し、ICTの利活用による社会全体の環境負荷低減に取り組み、様々な地球規模での環境問題の解決に努めます。

重視している社会の変化

地球温暖化の進行とエネルギー資源の枯渇

私たちのめざすもの

私たちは、社会を支え生活を守る重要なインフラを提供する企業グループとして、社会的・倫理的な課題の克服に真摯に取り組み、情報セキュリティの確保や災害・サイバー攻撃にも強い安心・安全なコミュニケーション環境を提供します。

重視している社会の変化

自然災害の頻発・激甚化

私たちのめざすもの

私たちは、“チームNTT”として、様々なパートナーの皆様とともに高い倫理観と人権意識を持って事業に取り組み、ダイバーシティを尊重した働きやすい職場環境の整備や個の成長に努め、豊かな地域社会づくりに貢献します。

重視している社会の変化

多様な人が活躍できる環境づくり

特に貢献しうるSDGsと、関わりを持つSDGs



9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



より良い未来を、
絶え間ないイノベーションで

全ての人により先進的で快適な生活を享受し続けることができる社会をつくること。SDG9は、技術革新を通じて持続可能な社会インフラを構築し続ける仕組みの世界的な実現を目標に掲げています。特に私たちNTTファシリティーズが日々つくり、守っているファシリティは、社会の様々な場で人々の生活を支える使命を担っており、そのさらなる進化と活躍の場の拡大は、SDG9の実現に貢献すると、私たちは考えています。



Theme 01

人と社会の
コミュニケーション

日々、世界経済は発展を続けており、それを支える社会インフラのイノベーション(技術革新)へと期待が高まっています。私たちは、IoT(社会の様々な機器のネット連携)の進化と、社会のスマート化を踏まえ、先進的なファシリティの実現に日々取り組みます。

Our Action
Highlight 2019

教育インフラを刷新するファシリティづくり

大学などの教育施設は、次世代を育み、新たな成長を生むための重要な社会インフラです。私たちは、長年のノウハウと先進の技術を組み合わせた次世代のファシリティを構築。教育施設に新たな価値を生み出しています。

Case 01

帝京大学 八王子キャンパス
SORATIO SQUARE
(ソラティオスクエア)

学びの場の未来を育む、価値創造 先進のファシリティでインフラを革新する

Case 01

帝京大学 八王子キャンパス
SORATIO SQUARE
(ソラティオスクエア)

1 これからのキャンパスに 求められるものを、形にする

大学には、かねてより、教育サービスを提供する機関としての快適性・利便性と、高度な研究を遂行するための機能性・効率性が求められてきました。近年はこれに加え、持続可能な社会に貢献するための環境性・強靭性を実現することも課題となっています。NTTファシリティーズが設計し、2018年4月より供用が開始された帝京大学八王子キャンパスSORATIO SQUAREには、これら社会の期待に応える新たな価値が随所に形づくられています。

2 価値創造のポイント

地上22階、地下2階のSORATIO SQUAREには、教室や研究棟は勿論、大ホールや食堂、大学本部などキャンパス内に分散していた機能の集約が求められました。16,000人を超える利用者が集う同施設にはNTTファシリティーズの行

動分析や設備レイアウトのノウハウが活かされ、利用者の利便性が高いフロア設計や移動設備の適切な配置が図られています。また随所でIoTや先進的な空調技術の導入が図られ、太陽光や通風・雨水といった自然エネルギーの活用ともあいまって高い環境性を実現しています。

免震構造など先進的な防災設計も大きな特徴です。周辺地域も視野に入れた広域的な地域継続計画(DCP)の拠点施設としての電源や災害用水、防災空地の確保なども心掛けており、地域と共生する帝京大学の姿勢を実現する施設としても注目されています。



頂部に設けた自然換気窓により、「風の道」として機能するエントランスホール



地層の断面をイメージして重厚感のある色味でデザインした1,000人ホール

3 成果と今後

こうした成果は、同時期に進められた「駒澤大学開校130周年記念棟(種月館)」プロジェクトにおいて、継続的に展開されています。本プロジェクトでは、先進的なIoTを活用したキャンパスの効率的なエネルギー運用と災害時の防災拠点としての機能を両立する環境調和型キャンパスとして、国土交通省「平成26年度 住宅・建築物省CO₂先導事業」に採択されました。

また、広大な敷地を持つキャンパスの建替え計画は、「街づくり」事業に近似する要素が多くあります。ICT・エネルギーなどを複合化し、地域の課題解決や個性豊かな地域社会の実現に貢献していくことをめざし、街づくりや再開発分野へも、積極的に展開しています。

NTTファシリティーズ
エンジニアリング&コンストラクション事業本部
総合エンジニアリング部 建築設計部門 第一設計担当

菊地 眞美



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

13 気候変動に
具体的な対策を



気候変動問題に向き合い、 あらゆる社会インフラの刷新を

世界の気温上昇を、産業革命以前に比べて1.5℃に抑えるため、速やかに行動する。グリーンでスマートな社会づくりに、持てる力を結集する。SDG7及び13が求める社会の低炭素化、脱炭素化の動きは、IPCC*が2018年に公表した「1.5℃特別報告書」をうけ、世界規模で加速しています。社会インフラの低炭素・脱炭素化は特に重要なテーマであり、日々、地域や組織の垣根を超えた様々な挑戦が続いています。

※ 国連気候変動に関する政府間パネル(Intergovernmental Panel on Climate Change)の略。
気候変動問題やその対策につき、科学的かつ多面的な見地から評価を行うことを目的として
1988年に国連環境計画(UNEP)と世界気象機関(WMO)により設立された組織。



Theme 02

人と地球の コミュニケーション

気候変動問題をはじめ、エネルギー資源の枯渇、生物多様性問題など、豊かな地球環境を将来に託すため、世界規模で多面的な対策が急がれています。私たちは、社会の低炭素化と脱炭素化、低負荷・省資源化に向け、長期的な視点で挑戦します。

Our Action Highlight 2019

低炭素、脱炭素社会をけん引する事業展開

NTTファシリティーズは、かねてよりSmart&Safetyを掲げてきた企業として、社会の低炭素化、さらには脱炭素化に貢献する事業を多面的に展開しています。省エネルギー性に優れた設備の提案から再生可能エネルギーを生かすイノベーションまで、2018年度も着実な成果をあげました。

Case 02
大規模データセンターの低炭素化

Case 03
バーチャルパワープラント(VPP)
実証実験への参画

Case 02

大規模データセンターの
低炭素化

データセンターのグリーン化に、挑戦し続ける。 世界基準での製品・サービス開発



1 日本国内でニーズが高まる、 大規模データセンターに適した冷却設備

日本では、大規模クラウド事業者のデータセンター需要が2017年～2022年で年間平均成長率20%ともいわれる程、急成長しています。この結果、これまでの日本市場の要求とは異なるグローバル仕様の超大型データセンターへと、設備仕様の対応が急がれています。施設の屋上などに設置される空調設備「チラー」はその代表といえます。具体的には、従来の空冷チラーの多くは事務所や商業施設向けのもののため、冷水の送水温度が7℃から15℃程度で効率よく運転されます。一方で大規模データセンターが最も効率的に稼働する送水温度は20℃であり、大きな乖離がありました。

2 世界トップメーカーのノウハウを日本へ

NTTファシリティーズは、オイルフリーチラー世界トップシェアのカナダSMARDT社と事業提携し、同社の大規模

データセンター向け製品「SMARDT TA Class」の日本国内における独占販売店契約を締結しました。まずは首都圏及び大阪の超大型データセンターを皮切りに、2019年5月8日より同製品の販売及び保守サービスの提供を開始し、データセンター事業者の低炭素化ひいてはランニングコスト低減に貢献します。なお同ラインアップは当社のデータセンターサービス「Fデータセンター」設備にも積極的な導入を開始しており、サーバールームの空調機器との組み合わせなどによりさらなる低炭素化を検証する予定です。



大規模データセンター向け、空冷ターボチラー「SMARDT TA Class」

3 よりグリーンなデータセンターを 普及させる

大規模データセンターの増加により、今までと異なるトレンドが広がりつつあることを感じており、ITインフラが支えるIoT化、クラウドサービスといった産業の成長が、私たちの生活をより便利に高度にしていくことを予感しています。

一方、投入資源に限りがある中で成長を維持するためには、エネルギー効率の良い施設の設計、構築、普及にも努めていかなければなりません。

そのためには、世界に目を向け新しい技術や設計思想に積極的に挑戦し続ける必要があります。

NTTファシリティーズは培ってきた経験やエンジニア力を通して市場の機微をとらえ、最適なソリューションを提供します。



NTTファシリティーズ
ソリューション本部
データセンター部 ソリューション開発担当

石野 敬太郎



脱炭素社会の実現を、さらに加速する 先進的な研究への参画

Case 03
バーチャルパワープラント
(VPP)実証実験への参画

1 再生可能エネルギーの利用促進に向けた バーチャルパワープラントの可能性

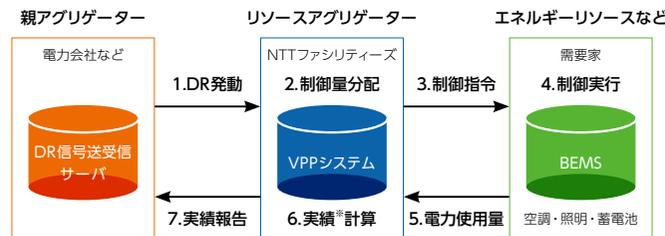
地球温暖化対策として、世界各地では再生可能エネルギーの利用促進が図られています。しかし太陽光・風力・水力などに象徴される再生可能エネルギーは性格上、出力の安定性に課題があります。この克服に向け蓄電技術の開発と並び重要となるのが、各地に分散するこれらエネルギーリソースを統合制御し電力の有効活用を実現することで発電所と同等の機能を提供する「バーチャルパワープラント(VPP)」であると、NTTファシリティーズは考えています。

2 官民連携事業に参画し、 エネルギー管理技術を高める

NTTファシリティーズは、2016年より経済産業省が実施している「需要家側エネルギーリソースを活用したバーチャルパワープラント構築実証事業(VPP実証)」に参画しています。

具体的には、需要家と系統運用者をつなぐ「リソースアグリゲーター」としてVPPシステムを構築し、需要家の負荷を制御するディマンドリスポンス(DR)や、蓄電池を含むエネルギーリソースの細かい制御に向けた動作検証を担当しています。これらの取り組みにはNTTファシリティーズがSmart & Safetyのスローガンのもと、長年にわたり取り組んできた事業ノウハウが大いに発揮されており、同事業への参画を通じ日本の脱炭素化を推進するエネルギー管理技術の蓄積へと意欲的に挑戦しています。

バーチャルパワープラント(VPP)を活用した
ディマンドリスポンス(DR)制御の仕組み



※ベースライン・電力使用量

3 エネルギー管理の高度化による 脱炭素社会の実現

VPP実証への取り組みを通じ、VPPは再生可能エネルギーの利用範囲の拡大や、需給バランスの安定化に貢献可能な技術となる手応えを感じています。また、ご協力いただいている需要家の皆様にも大変興味を持っていただいています。

社会の地球温暖化対策への取り組みが加速していく中、VPPへの期待もさらに高まっていくと考えられます。今後もリソースアグリゲーターとして、需要家の皆様と共に、VPPによる脱炭素社会の実現をめざします。



NTTファシリティーズ
ソリューション本部
スマートエネルギー部 ソリューション開発担当

土橋 英晃

11 住み続けられる
まちづくりを



先進的で安心な生活基盤を、 社会の全ての人に

持続可能な社会の実現とは、今日も、明日も、全ての人が進んだ生活を送れる仕組みをつくること。ICTの進歩が続く現在、その可能性を引き出す一方で新たな脅威を予防し、将来にわたりその恩恵を世界中にもたらす仕組みの実現が望まれています。「我々の世界を変革する」というSDGsの理念は、レジリエントで安心・安全な生活基盤を全人類に提供し続けることをめざすSDG11に強く表れています。



Theme 03

安心・安全な コミュニケーション

自然災害対策やICTインフラの高信頼化、サイバー犯罪対策など、安心・安全な経済活動・日常生活の実現がグローバルな課題となっています。私たちは、レジリエントで信頼性の高いインフラの実現に資するファシリティを提案し続けます。

Our Action Highlight 2019

IoT時代のファシリティとセキュリティ

NTTファシリティーズは、公共インフラや大規模施設の設計から運用、更新までを一貫して担う専門家集団として、急速に進む社会のIoT化に即した新たなインフラの在り方を研究し続けています。特に近年は、セキュリティ対策の重要性に着目し、ソリューションの開発に力を入れています。

Case 04 ビルシステム向け サイバーセキュリティソリューション

ファシリティの安全対策を、次のステージへ サイバー犯罪に備えた ファシリティづくりを進める



Case 04

ビルシステム向けサイバー
セキュリティソリューション

1 世界的に対策が急がれる、 インフラのセキュリティ対策

IoTが浸透しビジネスや日常に関わる社会インフラのスマート化が加速する現在、それらが直面するサイバーセキュリティリスクに対し対策を強化する必要性が、世界的に唱えられています。日本政府も現在、「サイバーセキュリティ戦略」のもと電力や公共サービス、情報通信といった14の「重要インフラ分野」を定めるなど、対応を官民連携で加速しています。多彩なインフラに携わるNTTファシリティーズも、社会の要望に応えるべく、様々な取り組みを進めています。

2 NTTセキュリティと連携し、サイバーセキュリティソリューションの提供を開始

IoT時代におけるスマートビルでは、ビルエネルギー管理システム(BEMS)などの各種システムが外部ネットワークと接続するケースが増えます。その結果、外部からの攻撃の

影響がビル全体に波及するリスクが高まります。

NTTファシリティーズは、NTTセキュリティと協力し2018年、ビルシステムのリスクの見える化や対策のコンサルティング、ビルシステムのネットワーク常時監視などで構成される「IoT時代のビルシステム向けサイバーセキュリティソリューション」を開発しました。NTTファシリティーズは、従来から自然災害、人的災害、設備故障などのリスクに対する「安心・安全ソリューション」をワンストップで提供してきましたが、2018年7月、これに同ソリューションを加えることで、ビルのトータルセキュリティソリューションの強化を図りました。

IoT時代のビルシステム向けサイバーセキュリティソリューションの内容

カテゴリ	メニュー
コンサルティングサービス	セキュリティアセスメント&プランニング
	セキュリティ管理プログラム構築支援
	セキュリティ対策の設計・導入支援
マネージドセキュリティサービス	脅威検知・通知
	サイバー攻撃遮断
	アセット状況の月次レポート

3 日々変化するサイバー犯罪を見据え、 安心・安全を提供する

サイバー攻撃に関するニュースを聞かない日がないほど、サイバーセキュリティへの注目が高まっています。通常のICTと異なり、ビルをサイバー攻撃から守るためには、建物(ファシリティ)とICTの両方の知識が必要です。当社は、NTTセキュリティと協業し、ビル設計や維持管理を行う会社としては、他社に先駆けてビルサイバーセキュリティソリューションの提供を開始しました。今年度は、2020年にオリンピック・パラリンピックが開催される新国立競技場のビルサイバーセキュリティアセスメントを受注したほか、NTTグループの通信ビルのうち、重要となる140ビルのビルサイバー点検を実施しました。

NTTファシリティーズ中央
ソリューション本部
ファシリティマネジメント部
システムエンジニアリング部門 IoT担当

秋山 裕貴



5 ジェンダー平等を
実現しよう

8 働きがいも
経済成長も



全ての人を尊重し、 生き活きと活躍する私たちを

性別や身体的特徴、文化といった多様性を尊重しあい、才能を活かす社会づくり、そして、全ての人々が公正に遇される社会づくり、SDG5とSDG8がめざす「ダイバーシティ」「ディーセント」の考え方は、今や世界共通の規範意識となっています。特に企業には、その実現に向け、サプライチェーンも視野にいれた価値観の醸成と施策の整備が強く求められており、その確かな実現に向け、社員一人ひとりの行動もまた重要度を増しています。



Theme 04

チームNTTの コミュニケーション

NTTファシリティーズは、年齢や性別、文化など、全ての人々の多様性が尊重される社会の実現に向け、企業の一層の貢献が求められていることを強く意識し、多くの人々が共に働くチームとして、また、企業市民の一員として、多様性を尊重し、活かす企業風土を徹底します。

Our Action Highlight 2019

多様な人材を尊重し、活かす施策の推進

現在、日本では、女性の活躍推進と、健康で生き活きと働ける職場環境の実現に、大きな注目が集まっています。NTTファシリティーズも社会の期待に寄り添うため、かつ、健やかな企業風土を育み続けるため、いち早く多様な施策を構築してきました。2018年度も多くの成果をあげることができました。

Case 05

多面的に展開した2018年度のダイバーシティ活動

Case 06

健康経営の推進と外部表彰



全ての人々が、自分らしく輝く。 多様な人材が認め合うグループを創る

Case 05
多面的に展開した2018年度
のダイバーシティ活動

1 「ダイバーシティ推進」は重要課題の一つ

NTTファシリティーズでは、かねてより「ダイバーシティ推進」をグループ共通の重要な経営戦略と位置づけています。多様な価値観を受容し、一人ひとりが生き活きと働ける職場環境を実現するには、人事・福利厚生など、各種制度の整備だけでなく、全社員に対する啓発活動を通じたダイバーシティを尊重する企業文化・風土の醸成が大切であると考えています。その実現に向け、ダイバーシティ推進室が中心となり、様々な取り組みをグループ横断で展開しています。

2 多面的な活動を展開した2018年度

NTTファシリティーズグループでは、女性の活躍促進をグループ全体で進めています。2018年度についても女性活躍の理解促進に向けた研修実施や、在宅勤務制度の充実・利用促進のための啓発活動、産前産後面談の実施など様々な取り組みを行い女性社員の比率は6.1% (2014年度) から

11.5% (2018年度)へと改善しました。

また、ダイバーシティ推進の一環として、性的指向や性自認に関わらず誰もが自分らしく生き、働ける組織の実現をめざし、LGBT等性的マイノリティに関する理解醸成など、様々な取り組みを進めており、2018年4月より配偶者及びその家族に関わる制度全般を同性のパートナーにも適用しました。これらの取り組みの結果、任意団体「work with Pride」が策定した「PRIDE指標2018」において、3年連続での「ゴールド」を受賞しました。

数字で見る、2018年度のダイバーシティ推進の成果

育児休職取得者 短時間勤務制度利用者 年次有給休暇取得日数

52名 61名 18.0日



3 全ての人々が働きやすさと働きがいを 感じる社会を実現するために

激化する市場変化や多様化するお客様ニーズに対応し、お客様に選ばれ続けるパートナーとなるためには、社員の多様な価値観や個性を尊重し、活用していくことが不可欠です。

また、多様性の確保とお互いを尊重できる職場づくりは、これまで世の中になかった画期的なイノベーションにつながります。そうした考えから、性別や年齢、人種、国籍、障がいの有無、性的指向、性自認などに関わらず、多様な人材が共に協働し、一人ひとりが能力を最大限発揮し活躍できる職場づくりに取り組んでいきます。

NTTファシリティーズ
総務人事部
労働部門 ダイバーシティ推進室

中野 資生 (右)
望月 ゆりか (左)



社員一人ひとりが意欲と活力を高めながら 健康で生き生きと働き続けられる 環境をつくる

Case 06

健康経営の推進と外部表彰

1 社員の活力を高める健康経営の推進

NTTファシリティーズは、社員一人ひとりが意欲と活力を高めながら、健康で生き生きと働き続けられることが会社の成長と発展の基盤であると考え、社員が自らと家族の健康の保持・増進を通じて、働きがいを持ち創造性を発揮できるよう「健康経営」を推進しています。

健康経営推進に向けては、健康経営推進責任者を任命し、会社とNTT健康保険組合が連携を図り、社員本人及び家族の健康意識の向上・健康活動に積極的に関与しています。

具体的には、定期健康診断の充実と診断結果を踏まえた健康指導、40歳を受診必須とした人間ドックの実施、ウェアラブル端末を活用した日々の歩数などのバイタルデータを記録・確認できるポータルサイトの提供などを通じて、健康行動のサポートを実施しています。

2 2年連続で「ホワイト500」に選定

また、メンタルヘルスや過重労働の防止に関しては、独自のメンタルヘルス問診を実施し、その結果を各部署と本人へフィードバックはもとより、社内外に相談窓口を設けるほか、各種研修を実施するなど、メンタルヘルスの啓発に努めるとともに、「働き方改革」の一環として、在宅勤務制度や勤務時間シフトによる効率的かつ柔軟な働き方を推奨するとともに、時間外労働自粛日の設定、社員一人ひとりの時間外労働実績の把握と、必要に応じた面談等の実施など、労働時間の適正化に取り組んでいます。

このような取り組みに関しては、経済産業省・日本健康会議より、特に優良な健康経営を実践している企業を顕彰する「健康経営優良法人2019（大規模法人部門）」に、昨年度に引き続き、2年連続で認定されました。



2019
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500

健康経営優良法人2019
ホワイト500

3 健康で自分らしく働ける 企業グループを創る

NTTファシリティーズでは、さらなるワーク・ライフ・マネジメントの推進に向け、「働き方改革」に加え、「休み方改革」にも積極的に取り組んでいます。

ゴールデンウィーク・シルバーウィーク・年末年始や夏季休暇に合わせた長期休暇取得の推進や年次有給休暇の完全取得を推進しています。また、選択型福利厚生制度（カフェテリアプラン）を導入し、社員各自のニーズに合わせて、財産形成、健康増進、住宅関係、育児・介護支援やレクリエーション施設などのサービス利用ができるメニューを提供しています。

今後は、テレワークやフレックスタイム制度など、より効率的かつ柔軟に、社員が働きやすい環境整備に努めています。

NTTファシリティーズ
総務人事部 労働部門 制度担当

中原 寛子



研究開発の成果ハイライト

ファシリティのさらなる進化に向けて

より良い明日を創り続けるため、私たちNTTファシリティーズグループは、先進的なファシリティの開発拠点である新大橋ビルを中心に日々技術革新に挑戦しています。2018年度も様々な成果をあげることができました。

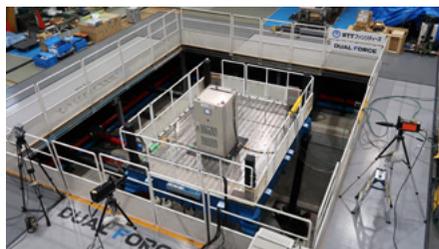


新大橋ビル

1 通信ビルのさらなる低炭素化に貢献する、HVDC給電システム向けリチウムイオン蓄電池

データセンターや通信ビルといった大規模施設の低炭素化が急務となっていますが、給電設備のコンパクト化及びエネルギーロス改善の切り札として高電圧直流(HVDC)給電システムの採用が加速しています。そのバックアップ用の蓄電池への活用に期待されているのがリチウムイオン蓄電池です。

EVなどで幅広く活用されるリチウムイオン蓄電池は、従来のシール鉛蓄電池に比べ小形・軽量であり、設置スペースの柔軟な運用が期待できます。NTTファシリティーズでは2006年よりリチウムイオン蓄電池の研究開発を続けてきました。その成果を活かし開発したHVDC給電システム向けリチウムイオン蓄電池は、NTTの通信ビルで要求される信頼性、耐震性、監視計測機能などを備えており、2018年度からは通信ビルへの導入が始まっています。



耐震試験の様子



通信ビル向けHVDC給電用リチウムイオン蓄電池

2 オフィスの快適性と環境性能の向上に貢献する「SNSチャットボット」による会話型設備制御システム

照明や空調などのきめ細かい制御は、施設利用者の快適性向上は勿論、施設の省エネルギーにも貢献します。このような視点から開発されたのが「SNSチャットボット」による会話型設備制御システムです。

同システムはスマートフォンにインストールされた汎用チャット用アプリケーションを通じ、情報伝達サーバを介して施設のBEMS及び設備機器を連携させるものです。同システムの導入により、利用者の希望にきめ細かく沿った各種機器の制御を提供できる一方、BEMSとの連携により制御範囲が制限できるため、快適性と省エネルギー性の両立が可能です。

現在は新大橋ビルでのプロトタイプの実証研究を実施し、サービスの提供開始へと精度の向上を続けています。

「SNSチャットボット」操作画面



第三者意見

法政大学大学院
人間社会研究科
教授
土肥 将敦 氏

一橋大学経済学部、一橋大学大学院商学研究科博士後期課程を経て、2009年に高崎経済大学地域政策学部准教授。2014年より法政大学に移り、2016年より現職。商学博士。著書に「CSR経営-企業の社会的責任とステイクホルダー」(共著、中央経済社)、「ソーシャル・イノベーションの創出と普及」(共著、NTT出版)などがある。



NTTファシリティーズ(以下、同社)は、今年度のハイライト版CSR報告書を「価値創造ハイライト版」と位置づけた。同報告書に対し、第三者としての評価と期待、課題の提示を行いたい。

新たな街づくり事業への期待

トップメッセージに記載がある通り、2019年7月にNTTグループの「街づくり事業」の窓口となるNTTアーバンソリューションズが設立され、同社はその主要子会社としてNTT都市開発との連携が強化されることとなった。地域創生・地域開発を注力分野に定めたNTTグループが、従来に増してグループの多様な経営資源やノウハウ、ソリューションを組み合わせて地域の社会的課題の解決に関わろうとする意思表示と読み取れる。人々の価値観が多様化する中で、いかに持続的で魅力ある都市空間を創出させるかという難度の高い課題へと、社会の期待が日々高まっている。これに伴い、4つのマテリアリティに即した同社のCSRには、「戦略性」と「個性」の両立を今まで以上に期待したい。上記グループ戦略への貢献が求められる一方、同社固有の活動や地域課題の解決への貢献も一層重みを増すからである。それぞれ、さらなる挑戦と成果が、次回からの報告書に反映されることを期待したい。

4つのマテリアリティにおける取り組みの進展と課題

まず「チームNTTのコミュニケーション」で、個別課題への取り組みが着実に現れていることを評価したい。女性活躍の理解促進に向けた研修制度の拡充や多様な取り組みの結果、女性社員の比率が高まり、育児休職取得者や短時間勤務制度利用者数などの定量・定性情報も示されている。ダイバーシティ推進の成果や、健康重視経営への継続的な取り組みが各方面からも評価されており今後も注目したい。

「人と社会のコミュニケーション」では、同社のノウハウを活用した機能性と防災性を具備する新しい教育研究機関の創造事例が掲載されており、これからの街づくり事業の可能性を示唆するものである。こうした事業を着実に展開する上で、自治体、企業、医療機関、教育・文化機関など、様々な専門性を有するステークホルダーとの協働・パートナーシップの重要度は増しており、この視点での報告も今後期待したい。

「人と地球のコミュニケーション」では、グループ全体で気候変動問題や脱炭素社会の実現に向けて先進的に取り組んできた成果が現れている。一方で、同報告書は表題の通り価値創造に力点を移したため、より詳細で定量的な進捗開示の役割は詳細版(web)に委ねられた。両媒体を適切に使い分け

明快さと網羅性の模索を続けることで、多様なステークホルダーからのさらなる信頼獲得につなげてほしい。

「安心・安全なコミュニケーション」では、グローバルに関心が高まる「インフラのサイバー犯罪対策」を取り上げた点を評価したい。自然災害の頻発に備える「災害リスク対策」や、人権侵害につながる可能性のある「プライバシー保護」などの観点と併せ、さらなる発信を期待したい。

次なるフェーズへ

最後にSDGsに関して記載しておきたい。今年度の価値創造ハイライト版は、SDGsの各ゴール(例:「9.産業と技術革新の基盤をつくろう」)を全面に出し、CSRテーマごとの貢献方法のひも解きを心掛けた点が印象的であるが、引き続き自社のアプローチとその成果の説明を深めてほしい。「ゴールへの理念的な賛同から各ターゲットへの具体的な貢献へ」という国連の期待も踏まえつつ、一般読者に向けた価値創造ハイライト版、専門家や関心の高い読者に向けた詳細版、それぞれでのさらなる報告の充実を期待したい。



ファシリティーうさぎ『エコロじい』

ファシリティーうさぎ『エコロじい』とは、ファシリティーというお茶が大好きな、
ECOを愛するウサギの老紳士です。

NTTファシリティーズのキャラクターとして
テレビCMなどで当社のECOをご案内しています。

お問い合わせ先

株式会社NTTファシリティーズ
CSR推進室

〒108-0023 東京都港区芝浦3-4-1 グランパークタワー

Tel : (03) 5444-5187 Fax : (03) 5444-5610

Eメール: xa05999@ntt-f.co.jp

URL: <http://www.ntt-f.co.jp/csr/>